

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都文京区本駒込 2-9-8
園名	キッズラボ千石園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水の中の生き物

<テーマの設定理由>

日々お世話をすることで、命の大切さ、儚さを感じ、考える機会を作りたい。

2. 活動スケジュール

- ・5月 水槽設置（魚のお世話 観察 日々の遊びへの発展→例えば水族館づくり）
- ・7月 4歳児 品川水族館
- ・8月 移動水族館（全園児参加）
- ・10月 4・5歳児芋ほり
- ・11月 魚解体（全園児参加） 4・5歳児すみだ水族館 3歳児芋ほり
- ・3月 3歳児 足立区生物園

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

水槽。バケツ
段ボール箱 画用紙 クレパス 絵具 スズランテープなど

4. 探究活動の実践





魚が天国へ行きました。

<活動の内容>

魚の飼育

飼育の勉強の為に水族館へ出かける。

生き物の生死を知る。

魚の解体をみることで、食べたもので自分たちの体が出来ていることを知り、感謝の気持ちに繋げる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

5歳児が中心になって、水槽のお世話を毎日続ける姿を4愛児がずっと見ている。いじめられている魚がいると日々観察をしているこどもたちの中から発見があり、心配していたがその魚が朝登園した時に死んでいた。そのことについて、子どもたちが答えの無い会話をし、担任もそこに加わり、保護者様もそれぞれの価値観の中での会話をして頂いていた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

毎日水の状態を維持する為に水を足したりして、魚にとって居心地がよいであろう環境を維持することを一年間続けてきた。より良い環境とはどんなことだろうと、図鑑を調べたり、園の外にでて水族館を観察し、係の人に質問をしたりすることで、より知識を深めていた。また、命に関する面ではペットとしての魚の飼育と食べ物としての魚の存在を考えるきっかけにしたいと思い、魚の解体を目の前で行う行事を設定した。生臭い血の臭いと真っ赤な血、悲鳴をあげる子もあったが、それでもしっかり目は魚を見ていた。最後はいつも食卓にある切り身の状態になり、給食で頂いた。自分たちの体は口から食べたもので出来ているという話をし、改めて「いただきます」の意味も伝えると、しっかり聞いていた。

食物連鎖の一部分ではあるが、考えるきっかけ作りには、良い経験となったと思う。